

LOOK WIDE LOOK WIDE LOOK WIDE LOOK WIDE LOOK WIDE

レックワイド

LOOK WIDE LOOK WIDE LOOK WIDE LOOK WIDE LOOK WIDE

シニアスカウト

E君への手紙 + 読後感

レックワイド

京都ガ38シニアスカウト隊

サハチシニアスカウト技術部水道課 作成

1977.4.相

E君! 便利のないのはよい便利とは昔からのいいならわしだすが生糸の不精をいいことにすかしござふせたりしてしまったね。以前のユニークにして達人の要素のある正己リーダーは、東京から抜け荷的技により?十円かい帰ってくるという特技を持立たげなく筆達者な人物ごよくE君達に便利を出していったようですね。

ただ残念なことにこの特技が“あた”となり国家警察局から追われる身となつて今は東京郊外に身をかくす。かたわら季節がかかるたびに我國へ一筆記する身となつてしましました。彼がいなくなつて久しく便利もなく、E君も久しくしてみるとあろうと思ふ。小生が久しぶりに筆を取った次第です。またE君達があの寒い百井キャンプ場で開催してくられたパーティーの主人公も今は原則的に一度しか許されぬ旅に出でる間どもあるかがござります。

今度は、ニューヨーカーもパリでもなく本当の本物…ハイへ行つてゐるのです。

△ 実は最近E君の友人からシニアスカウトをしていても将来の職業が保証されないといふ訳ではなく、将来のめしはくうでいけへん、ということを耳にしました。

最初は、寒い話だなあと割り切りかけたのですがよく考えくみるとその友人のみでなくE君はじめすべてスカウトが悩む問題であると覺つて、あえて手紙を書くことにしました。難文にならこさうかもじ不ませしが一度皆で考えこみようでは。

ないですか!!

今、ハワイの方人となっている 日本 IBM のスペイ的リーダー 優一
治子氏の言葉をかりよなら スカウトであり得たことが仕事の
どこかでプラスとなり 生かさねていると思う。

最終的には、これにつまるこ小生は思うのです。

△ "だから" てなっけれども 最近"人生と何が、いかに生きる
べきか"などと考え込んでしまう時が多くなってきました。
なぜかエ、うと 夜となく夜となく仕事の虫となつていた自分に
のんびりとするチャンスを与えて以来、何かこの自分が無責任
でなまけもので 一、此と思うようになり いやになつてきましたか
らです。

結局、何に目標と置くべきかのピントがすれてしまって、像が
ぼけてしまった状態にある。

僕は、自分自身に正直にかつ厳しく信念を貫いて生きていく
程の根性も精神も持つてないからいつも のりくろりとして
いる。ドジくさい人間だと思ってる。だから、何事に対しても
ドロくさい――

だから 送に言ひは 同じ1人の人間がやることなのだから得意
不得意はあっても どんな小さいことでも 一つのことが完全に
スマートに出来るだけの能力を持っている人なら、他のことをや
せてみても そこそこのことが出来ることはすんだ。

だから、仮に"ミニア"と休めて その時間を勉強に使つたとし
て、それが成績が上るとは、思えない。

さんが単純な問題ばかりと思うし 並んで 自分自身を見て

icus そう思う、またいやにもなる。

△ 結局 "何に希望を持ち何に向かって自分が進んでいくか"
ということになる。

僕の場合、何度も自分に対して失望したり 自信もない。

でも 結局 他の物からは逃げられても 自分自身から自分を
逃がすことは出来ないのだから、やはりあせらずに手を
組んで歩っていくしかないと思う。

確かに目前には、現実しかないし、夢物語では通用しない
しかし、自分はたとえ現実はどうあれ、この現実を変えていく
ことが出来るのも自分だとと思う。

最終的には、自分自身が目標に向つくると思う。

ちょっと文がつまつたので ルックワードの感想文を記
しこみよう――

5名の新入スカウトが 1976.10. に記したものです。

その1： この章を読んで思った事は、"たぶん、もうたぶん、
よく。まず奉仕だが、ぼくは、これを人の力になるとか、
悪を正に変えると言う意味でやっている。前者の方は一般
の人でも考えていることだが、後者の方は前者の方より大
切なことだと思う。例えば、ある電車の中で、ある人が
暴力をだわかったとしたとする、その時、たぶん、助けるだろう。
もし助けようと一人乗り込んで、他の人はどう思うだろう。
"あ、あほや。やつけるやんの当前やのにと思わぬ、

だろか。

もう少しめんどくさい人よりも“かわいそう”とか思ふ人がいたりがーこの場合、暴力をふった人が悪いのは当たり前だが周りで見ていた人はよいこととしたのだろう…か。

人が助けを求めても助ける。1人が助けに入ったしかあほとしか思えない人は良いことをした人だろか。

僕は、暴力をふる人と周囲の人々の中を正しい方向に向けた時に大きな奉仕をしたと感じる。

次に利己的なことだが、これは、その人のやうたいようにさへまだと考える。もし大人になった時、自分の考えが通用しないことに気がつくだろうか。

だから利己的な心を持つことは悪いことであるからそれをするように心がけなければならぬ。

しかし、他人の意見だけしが聞けないのならばジレンマに立たされるだけである。だから他人の意見をよく聞き、その上で正しい答えを見つけることが大切である。次に自然である。

と言ふことだが、“聞くは一時の恥、知らぬは一生の恥。”と言う言葉が私に語りかけるには… 知ったかるいはいけない。自分が知らないなら知らないで聞けばいい。自分に他人は正直ならば決して道を間違わないだろう。最後にルックワードはスカウトよりも一般の人によんでもらった“本だと思う。

この2:これを読んでわかったことは奉仕するということを自然といふことが書かれるとあると思う。奉仕とは奉仕をしなければならない…といふことがかりである。あるいは何が書いてある

のか、何をやうとしているのか、ぼくには理解出来ない。

この3:このルックワード第一章を読んで人生は冒険をしていろようかものだという事を思った。人間は毎日毎日を大切に生きなければならない。そしてこの地球上に生きてもらっている。御返しをしなければならない。物質的な報酬をともなわない。仕事なんて、誰でもいいんだ。でもこの私達の奉仕の報酬は、この奉仕によって助かった人々の喜びだ。それで充分じゃないかとぼくは思う。最近の人間には、こんな奉仕の精神がない。

みんなルックワードを読めばいいんだ。さしたゞ少しへ、奉仕精神が養えるんじゃないかと思う。皆、奉仕は、せせらぎものだと考えていると思う。でも書いてあるように奉仕とは、自分でせがして行なうべきものなのだ。人々は、たれも、人を幸福にする力というものを持っている。皆は何もミホを知らない。

もっと自分達の持つべき権利に気付くべきなんだとと思う。最近の人は利己主義であると思う。こういう人は、不幸な人だとと思う。自分が何をしているのがおかしいのかと思う。こういう人は、結局、弱い人なんだ。人間は努力することによって自分自身というものができてくるのだと思う。何も努力しない奴は、人間にしても出来ないようである。ルックワードには努力が自分のテーマだったという人の例をあげているが、そういう人こそ人間だと思う。僕は、これから的人生を冒険していくとともに自分を誇張したい。そして奉仕精神にあふれ人を幸せにしていくような人にになりたい。そして自分が生きているから地球はよくなつと言うことの出来る人物になっていきたい。

この4： 初め解説を読んでから、もっと活動についてや実践的な事が書かれてあるのかと思ったが、内容を読んでいくと人生についての事とか、抽象的でわからにくく、所もくつかありました。しかし感動した所もあったし、これから僕たちはどう考えていけばいいのかを詳しく例をあげて教えてくれました。まず読後の感想は読んでもよかったですと思いました。次に僕の持った感想を詳しく述べてきます。人生は楽しめまくったらいつのめかとう問題があり、これに対する僕の考えは別にどちらでもええのちゃうか、後で擅するだけやと思っていました。さて、この本の示すところでは、それは寂れた態度であり破壊への道だと書かれました。こう書いてあると完全に間違った考え方だと見えますには、いかれません。だからこのことを忘れて苦労しながら楽しみを作つて行くと思います。次に奉仕についてですが、奉仕は私たちとは密着しているものと書いてあります。自己を捨て他人への思いやりが奉仕につながつたのだと言つてあります。その裏例もあがつていました。僕は、その例を見て感動しました。その他述べてあることは、自分の意志は、いつもちゃんと持つて、失敗にくづけない、友好関係を育てる事が上がつてきました。これを見て直ちにそれはならない落点を見つけましたし、これからは自分が思えば失敗を恐ねず自分自身をさすとこまじがンバッテいくと言つてことです。そして最後にこの本を学んだ事をできるだけわざわざやつてみたいと思つます。

この5： 僕は、レックワイトと言ふ言葉が暗示してある意味が、はかり知れない量である事に驚いた。また、それらの意味が

偉大であることを知らされた。

ところが、今の僕には、まだこの語に対するような状態はなかった。そして一瞬ニアの事が不安にかた。ニアスカウト部門というものは、君たちの手によつて出発した部門である。君たちの手によるものであつたとするならば、君達の先輩の手によってスタートされたわけです。と言う言葉が自分は、うまくやつていただろうかと以前に比べて不安を増した。でも不安にはなりながらも僕は、ニアスカウトのモットとも言うべきものについて希望を持った。勇んでやる! 目立広くひらいて!!

僕は、この機会に“レックワイト”を見習つて、それの意味を認識し、今までよりもスカウト活動をきっと充実させ、今後の自分の目標にしていきたいと思った。これから僕は、自分の人生について考える所を始めた。僕は、人生について今までに何の關心もなく生きて来たと思う。また生きる意欲さえ余りなかつたようだ。僕は、今では、やう生きるこの楽しさ等を味わつて意欲を燃していよいよになった。それと同時に生きることの意義のようすをつかんだ。奉仕するここが、自分が生きに行く上でどんなに重要であるかと言う事もつかめた。作者は、奉仕とは地球上に与えられた我々の場所において支ねる家、偉である、と言ってくれています。僕は、この事は最初は、もちろんこれはスカウトの義務であるから、一のようには作者が言つてゐたが、これは、作者が言つてゐたのだと思つていたが、これは作者の僕たちに対する奉仕の重要性を作者が知つて、この奥、やりのようち物だったに違ひない。

僕は改めコレックツワードという言葉を使つた。

以上 原文のまま。

先輩としての庄君はどう思ひますか。

あるいは、どうでもいいと思うかもしれませんね。

コレックツワード 人生とは何か、こんなことを思つては 時間があるのなら、勉強している方がよいかと思うかもしねませんね。

今は、三歳ごろからやがて駆け出し熟達だと いって、この子方があるいは人間らしい時代かもしねません。

ただほくらは若し、これから少し人間といつまわるぞ。今後に希望と期待があり明日とこう日に備えが出来て自由で……

だから、もっと真剣に色々な物事に対して考えていいけるはずだと思う。

僕にも理解出来る方々が山とあって でも結局、ベースで手をぐりて知つていくか 方法がなくて、そんな中にスカウティングというベースがあるのだと思う。

自分の前にある現実はいつしか近くで結局、それだけ見つめていけるかなと思う。



ひとこと

信頼されるということ

副国際コミッショナー 松平 賴明



私どもは、人間はお互いに信頼し合わなければならぬと教え込まれてきましたが、近ごろは新聞などで、たびたび人は信頼できないというような記事を読むことがあります。

人間相互の信頼は口で、知識で教えられるものではありません。ふだん、それが実行され、その結果を見て、それが信頼に値するかどうかを他人が評価してくれるものだと思います。

話はいささか旧聞にぞくしますが、今から21年前、ロサンゼルスの郊外で第3回全米ジャンボリーが開かれました。そのとき、私はロサンゼルスから東南約160キロ程のところにある当時世界一の反射望遠鏡を備えたパロマーラ山天文台を見学に行きました。車で山を登って頂上に近づくと、ふた抱えもみ抱えもあるヒマラヤ杉が立ち枯れていて、そのそばを通り過ぎました。

アメリカではよく山火事の話を聞きます。こんなところで火事でも起こしたら、たちまち世界一の天体望遠鏡は灰になってしまいま

す。だから道路には「ノー・ファイヤー」(火気厳禁)という立て看板が立っています。ところが、その中のひとつに「ボーイスカウトは除く」というのに目がとまりました。アメリカのBS隊長は、野外で火を起こすとき格別な注意を隊員に守らせています。だから山火事を起こしやすい所でも、BSに限って炊事することを許可しているというのです。

隊長も隊員も、ふだんからスカウトのハンドブックの注意事項を厳重に守っているので、社会の信頼を厚く受けており、この立て看板のような例外的扱いとなっているということを、そのとき案内してくれた人から聞きました。

ですから、たとえひとりのスカウトでも、もし社会から信頼を失う行為を犯せば、たちまちボーイスカウト全体の名誉や信頼を失い「ボーイスカウトは除く」という例外措置は取り除かれてしまうことはいうまでもありません。スカウトの名誉は信頼されることにあるということを、もう一度確かめましょう。



世界スカウト章

NO. 255 1974. 10